

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成25年度第1回情報教育研究委員会分野別情報教育分科会 議事記録

- I. 日 時：平成26年1月22日(水) 午後4時から午後6時まで  
II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室  
III. 参加者：真下主査、児島副主査、日置委員、徐委員、角田委員、武藤委員、阿部栄子委員、  
及川アドバイザー (Skype)、渡辺アドバイザー (Skype)  
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本職員

IV. 検討事項

1. 情報教育研究委員会の事業計画と中間報告について

- ・ 高大接続分科会では、情報の教諭を支援すること、教員養成課程での情報活用能力を展開すること、大学入試での情報関係教科の導入を普及させること、次期学習指導要領改訂の対応についての問題を検討している。
- ・ 親委員会では、情報ネットとどのように向き合うのかとしたフォーラムを実施することになっている。
- ・ 情報リテラシー情報倫理分科会では、作成したガイドラインについてアンケートを実施した意見を踏まえた見直しを進めており、今後は、教育・学修方法の実践例や達成度の標準的な評価方法などについて研究を進めることにしている。
- ・ 情報専門分科会では、学士力の考察・授業改善モデルについてアンケートを実施した意見を踏まえた見直しを進めており、今後は産学連携事業と連動して研究を進めることにしている。
- ・ 分野別情報教育分科会では、情報活用能力について30分野の情報教育のガイドラインとしてとりまとめ、2年前にアンケートを行った。大学での情報活用としているが、今後は、高校の各教科での情報利用を理解してもらうことも含めて考え、大学での活用事例を紹介することになっている。今年度は特長的な候補をアンケート回答から抽出し、来年度にWebで紹介することを考えている。

2. 情報活用能力に対する取組みアンケートから紹介する事例候補について

事例紹介の候補について、事前に選定された教育内容から、以下のように選定理由として各専門分野で効果的な内容が紹介され、今後の進め方について議論がされた。

- ・ 経済学分野では、大人数授業での LMS を利用したフィードバックや上級学年生の支援などの事例があげられた。
- ・ 経営学分野では、大人数授業でどのように教えるのかの課題から双方向性の確保、情報を適正・適切に扱うことなどの事例があげられた。
- ・ 被服学分野では、大学内での教員連携や CAD ソフトの活用などの事例があげられた。
- ・ 歯学分野では、事後学習の促進、タブレットの活用などの事例があげられた。
- ・ 物理学分野では、動画を利用した動機づけなど教育効果をねらったもの、LMS の活用、視覚化する手法での実験などの事例があげられた。
- ・ 機械工学分野では、CAD・CAE の利用、制御ソフト利用の習熟、批判的に姿勢、シミュレーションからプレゼンの実施などがあげられた。以前よりリテラシーの向上を感じた。
- ・ 医学分野では、電子カルテから臨床推論、ディスカッション、診療情報の活用など、医療情報をどのように取得し、患者に適応できるかの事例があげられた。
- ・ 化学分野では、科学での情報教育の包括的な取り組み、情報検索から討議・プレゼンさせ

る事例があげられた。

- 建築学分野では、パッケージを鵜呑みにする危険性、疑ってかかること、BIMの利用、情報倫理意識の徹底などの事例があげられた。現社会を考える姿勢が重要ではないか。
- 栄養学分野では、グループでの提案、脂質異常の症例で情報収集から公表など一連の実習を実施、情報収集・プレゼンなどの事例があげられた。
- 以前のアンケート結果から、到達度で取り組みの多いもの、今後取り組まなくてはならないものに、今回の候補は合致しているのか関連付けが必要ではないか。
- 学系別・サイバーコンソーシアムの各委員に分科会からフィードバックして意見をもらってはどうか。その中で候補を確定させてはどうか。
- 候補の内容について、記載全部ではなく、部分的に切り出して紹介した方が良い場合があるのではないか。その場合、キーワードなどの再提示を検討することにした。

## 2. 今後の予定

- 来年度の事例紹介に向けて、ガイドラインの到達度との関連付けと部分的紹介にするかの判断をそれぞれの委員で分担し、分科会候補を提示するとともに、学系別・サイバーコンソーシアムの各委員に意見を伺い、候補を確定することにした。
- 次回の分科会の日程はネットで調整することにして、事例を紹介することの項目（内容・ホームページ・シラバスなど）とボリュームを検討することにした。